

歩いてわかった石屋川の植生と防災について

山本帆乃佳・森本桃

(兵庫県立御影高等学校総合人文コース2年 グローバルスタディ地域環境セミナー)

はじめに

本校総合人文コースにおける総合学習の講座、グローバルスタディ・地域環境セミナーでは本校周辺地域の環境課題を調査する活動を行っている。私たちは身近な河川である石屋川に注目し、護岸構造が植生や防災とどのようにかかわっているかに興味を持った。

調査方法

- ① 人と自然の博物館の三橋弘宗先生と石屋川の護岸と遊歩道を現地調査
- ② 神戸市土木事務所からの聞き取り調査

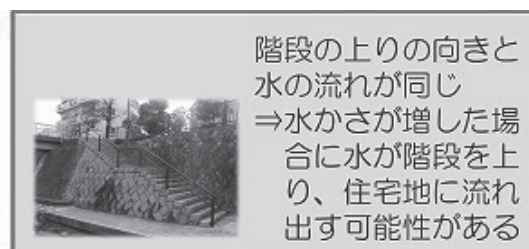
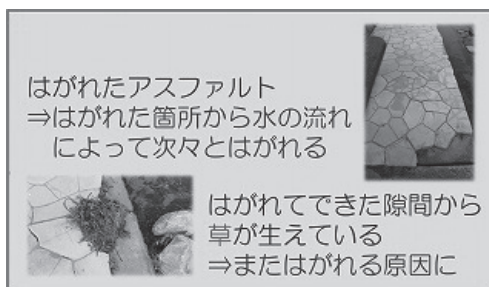
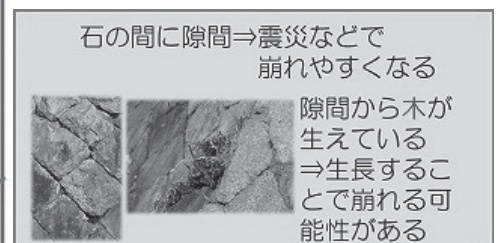
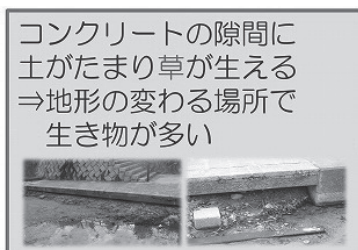
結果

- ① 現地調査により、治水の観点から良好な部分と不安な部分が判明した。

良好な箇所



不安な箇所



- ② 定期的な巡回調査では上記の箇所は許容範囲である。補修の優先順位は低い

考察

石屋川は震災以降の修復で、外見上は問題ないように見受けられるが、大規模な水害時にはわずかなほころびから崩落する可能性がある。破損箇所からは土砂が流出し、植物の発生している箇所は土砂の流出箇所と一致した。植生は河川の景観にプラスに働くが、治水の観点からは危険な状態であることがわかった。市民の注意喚起が行政の安全対策につながればと感じた。